



このメールマガジンは、今週発売となる日経ビジネスの中から気になった記事を選び、私なりの視点で考えたことについてお伝えするものです。会社での朝礼時のネタ、取引先との会話、同僚との間の話題づくりにお役に立てたらと思い、毎週月曜日に発信いたします。

「日経ビジネス2013年5月13日 no.1690
『旗手たちのアリア～子煩悩なモーレツ社長』より

【欲張りでいこう】

私が娘を授かったのは、10年前の3月中旬のことでした。

その年は、今年のように暖かくなるのがとても早く、娘の生まれた病院から妻の実家に帰る途中で満開の桜の木を見上げた記憶がはっきりと残っています。

34時間の難産の末に生まれてきた娘はとても小さく、かわいいかかわいくないかなんてその時には分からなかったのですが、とても愛おしくかけがえのないものでした。何かを手に入れて、これほどまでにうれしいと感じたことはありませんでした。

その当時、私は転勤で大阪から東京に戻ってきたばかりで、新しい得意先に対して早く慣れようと一生懸命な時期でした。また、ずっと患っていた十二指腸潰瘍が、かつてないほど痛み始め入院するなど、何かとバタバタしていました。

そんなこんなで始まった私の子育てですが、あることがきっかけに育児への関わり方が変わりました。

それは、2007年にたまたま参加したイベントで、ファザーリングジャパンの安藤氏の講演を聞いたことです。父親として積極的に育児にかかわるきっかけとなりました。

そこで聞いた話のひとつに、「子どものうわばきをお父さんが洗おう」というものがありました。金曜日、子供が学校から持ち帰ったうわばきをお風呂に入れた際に洗います。うわばきの汚れ具合で、その週にどんな過ごし方をしたのかが、なんとなくですが分かります。また、靴の大きさで、子供の成長を把握することができます。

このうわばき洗いは、今でも続けています。

日中に目いっぱい働くお父さんの子育てへの関わり方は様々です。今週は、出世街道をまっしぐらに突き進んでいたモーレツ社員が、娘の誕生をきっかけに起業したという、私以上に子煩悩な社長さんがいる会社のお話です。

「絵本ナビ」というサイトがあります。

絵本ナビは、絵本に特化した口コミ・通販サイトで、年間利用者数が500万人を超える日本最大級の絵本情報サイトです。

レビュー数も今では20万件を優に超え、絵本の年間販売数は、約30万冊に及びます。

この会社組織のコンセプトは、「ハードワーク。でも子どものためならいつでも休める会社」です。

この会社の社長さんである金柿氏は、娘の学校行事やイベントがあれば迷わず会社を休み、娘の塾の迎えや家で夕飯を食べるために会社を早くすることも日常茶飯事です。

金柿社長は、こう言います。

「その日起こったことはその日に、遅くとも次の日の朝までに聞かないと流れてしまう」

そこで自らのノルマと課したのが、「どんなに忙しくても土日を含めた週5日は、家で夕食をたべること」です。

これは、とてもいいことだと思います。

私の実家は自営業でした。父は、車で15分程度のところに工場を設けており、大抵は6時には家に帰って、ひとつ風呂浴びてから、夜7時から家族全員揃って夕食を食べるのが習慣となっていました。

幼かった私にとって、夜7時に家族全員で夕食を取ることは、ごく当たり前のことであり、それができない家庭があることを想像すらできませんでした。

結婚し子どもが生まれ家族ができた時、やはり求めるのは自分が育ったような環境です。

独立した今は、仕事をする時間を自分の都合に合わられるので、仕事の合間に家族で食卓を囲み、食事を終えればすぐに仕事に戻ると言うことができます。

ただこれができるのは、私の職場が自宅であり、仕事するのに特定の場所や時間に制約されないことがあります。

かつて私がサラリーマンだった頃、仕事のしかたに疑問を持ち、当時の仕事内容でできる限り家族との時間を持てるようにするにはどうしたらいいかを真剣に考えたことがあります。

その時出した答えは、朝早く出勤して残業はしないで帰るということです。

6時に仕事を終えて、急いで帰れば7時の夕食には間に合います。

6時以降にする仕事は、大抵の場合、翌日に間に合わせなければならない仕事です。であるなら、夜8時までに仕事を仕上げて、朝7時に出勤して始業の9時までに仕上げて結果としては変わりません。

また、1日目いっぱい働いたあとにする残業と、フレッシュな頭で仕事ができる朝の仕事では、集中力や発想力が違ってきます。

仕事のクオリティを落とさず、家族のために時間を捻出することはできるのです。

金崎社長は、絵本ナビを立ち上げて仕事が忙しくなった時、「あなたはオバマ大統領より忙しいの？」という奥さんのつぶやきに我に帰りました。

いつの間にか、仕事を理由に妻や娘と接する時間が少なくなっていたのです。

こうならないために、会社を辞めて独立したはずなのに、悔しい思いをした金柿社長は、仕事の取り組み方を抜本的に見直しました。

金柿社長は、こう言います。

「従来は、『マイホームパパ＝仕事ができない』というイメージが付きまとっていたが、これからの時代は優秀な人ほど家庭と仕事の両立を模索するはず。家庭を取るか、仕事をとるかといった選択を迫られる企業では、長期的な視点で見た場合に優秀な人材が集まらない。いつでも休める会社というコンセプトは、決して楽をできる会社という意味ではない」

子どものためならいつでも休める会社を標榜することで優秀な人材を集め、育て、長く勤務してもらうことで、会社の成長を勝ち取ろうとしているのです。

仕事もするし、子育てもする。やり方は必ずあるはずです。

仕事と家庭のどちらかを選択するのではなく、どちらも欲張って両立することができないかと考えるのは、ごく当たり前のことです。

欲張りで行こうじゃありませんか。